

MEDIA UNIVERSAL DESIGN COMPETITION



受賞
作品集

 ご希望のカードを取り、レジにてご提示ください。
Please take the card of the desired service and give it to the clerk.

1  レジ袋 Plastic bag	2  スプーン・フォーク・はし cutlery	3  あたため warm up	4  ポイントカード利用 Point card
--	---	---	---

現金以外のお支払い方法

5  クレジットカード credit card payment	6  電子マネー electronic payment	7  QRコード決済 QR code payment	8  レシート receipt
---	---	--	---

Cashless payment

Two sample forms for the competition, one purple and one yellow, featuring a silhouette of a person and various input fields for personal information and preferences.

【自分と比べて！】
体格 ☐ 身長 ☐

名前 年齢/性別 出身

自分との関係

仕事/所属

どこで

好きなこと

話したこと/したこと

★この人のとくべつ



ま え が き

全日本印刷工業組合連合会・CSR推進委員会では、2021年12月に開催いたしました「第15回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション」におきまして高い評価を得た作品を、受賞作品集として冊子にまとめました。

今回は3つの募集部門（①グラフィックテクニック（DTP） ②商品企画 ③製本、加工技術）に対し、全国から237点（一般の部：47点、学生の部：190点）の応募をいただきました。これらの作品については審査会で厳正な審査が行われ、全21点の受賞作品が決定いたしました。

それぞれの受賞作品には審査委員による講評を掲載していますので、メディア・ユニバーサルデザインについてさらに深くご理解いただくためのツールとしてご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本コンペティションの趣旨にご賛同いただきご後援・ご協力を頂戴しました官公庁・企業・団体の皆さま、および作品のご応募を頂戴しました皆さま、審査会にご参加いただきました審査委員の皆さまに心より御礼を申し上げます。

全日本印刷工業組合連合会

会 長 滝澤 光正

CSR推進委員会

委員長 浦久保康裕

第15回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション審査委員（敬称略・順不同）

審査委員長

寺井 剛敏（金沢美術工芸大学 視覚デザイン研究室 教授）

審査委員

古瀬 敏（一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会 理事長）

伊賀 公一（NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構 副理事長）

田中 陽介（NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構 副理事長）

江副 好美（NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構）

土生 英彦（色覚問題研究グループぱすてる 事務局長）

高橋 正実（MASAMI DESIGN）

小浜 朋子（静岡文化芸術大学 デザイン学部 デザイン学科 教授）

武田 一孝（一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会 専務理事）

竹綱 章浩（きづきデザインラボ）

伊藤 裕道（NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会 会長）

橋本 博（NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会 事務局長）

浦久保康裕（全日本印刷工業組合連合会 CSR推進委員会 委員長）

オブザーバー

富田 智（経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課 課長補佐）

小松 汐里（経済産業省 商務情報政策局 コンテンツ産業課 係長）

第 15 回

メディア・ユニバーサルデザインコンペティション 審査結果

応募総数：237 点（一般：47 点、学生：190 点）

		企業・学校名	出品者（敬称略）	作品名	都道府県
経済産業大臣賞	一般	杉山メディアサポート株式会社	山崎翔太、綾部晶	レジコミュニケーションカード	東京都
	学生	静岡文化芸術大学	高橋美羽	あのひと手帖	静岡県
優秀賞	一般	株式会社武揚堂	宇佐美明々香、内村祐哉	まちなか防災アクション	東京都
		株式会社新聞印刷	眞榮田拓也、土屋武義、石井貴司、水野祥徳、草川祐二、池田実佳	大相撲トランプ	大阪府
		松本印刷株式会社	橋本良太、関田奈保子	ぼくはひだりきき	静岡県
	学生	専門学校 浜松デザインカレッジ	岩崎宥真	UNO WHITE	静岡県
		専門学校 浜松デザインカレッジ	山下理恵	野菜の鮮度が一目でわかるマグネット	静岡県
		京都女子大学	石田妃奈子	一日一手話 日めくりカレンダー	京都府
佳作	一般	株式会社 スタジオオーネ 63	檜垣美乃里、大場千種、小野奏江、藤原美紀	みんなで学ぼう！SDGs ツール	東京都
		大阪シーリング印刷株式会社	増山由佳、柴田みお、米田友規子、池田恒、乗松めぐみ、中原聡美、岡田智子、勝山優行、宮崎真奈	あつめて つなげて 手話ゲーム	大阪府
		大阪シーリング印刷株式会社	田川晶子、大町瑞穂、片山博美、河澄香菜子、久保祐大、住吉恵利花、富田美奈子、満洋、村中成仁	備えを知らせる B I - C H I K U	大阪府
		株式会社明新社	松本公一、夜久敬広、中川由美、湊悠介、山本直人	話せますく	奈良県
		富士印刷株式会社	石田恵実、古川大伸、望月佳奈美	Translation CF（翻訳クリアファイル）	三重県
		株式会社一心社	制作部	ユニバーサルマナーブック	大阪府
	学生	専門学校 浜松デザインカレッジ	デロスサントス・アガ	安全な日本暮らし あしたのわたしに。いつかのなにか。	静岡県
		専門学校 浜松デザインカレッジ	梅葉陽	ぼくはへんな子？	静岡県
		専門学校 浜松デザインカレッジ	深田理子	このマークってなんだろう？	静岡県
		専門学校 浜松デザインカレッジ	吉永光希	文とり鳥	静岡県
		専門学校 浜松デザインカレッジ	東畑遥香	Allergie food シール	静岡県
		京都女子大学	山本奈々	家族みんなで防災すごろく	京都府
		京都女子大学	宮部あかり	あそんでまなぼう！もしもの手話ゲーム	京都府

経済産業 大臣賞



(一般の部)

「レジコミュニケーションカード」

杉山メディアサポート株式会社

山崎翔太、綾部晶（東京都）



ご希望のカードを取り、レジにてご提示ください。

Please take the card of the desired service and give it to the clerk.



現金以外のお支払い方法



工夫点

コロナウイルス感染対策で、レジや受付等で店員さんとお客さんはマスクを着用し、保護用シートやアクリル板越しでの会話が日常になり、お互いの声が「聞き取りづらい、伝わらない」という場面が増えました。

そこで、提示することでの確に意思を伝えることができるカードを作成しました。マスクで

口元が隠れていることでコミュニケーションが取りにくい聴覚障害の方や、海外の方もカードを提示することでスムーズな意思疎通が可能になります。



講評

コロナ禍で、マスクを着用することが多くなり、コンビニなどのレジでのコミュニケーションが聞きづらい、伝わりにくいなどの問題点に着目して、ありそうでなかった新しいサービス提案に着目した点が素晴らしいと思います。企業が自動化、効率化を求めるだけでなく、コミュニケーションのとり方という効率化だけでない

視点で取り組んでももらいたいといった、今後の方向性を提示している点を高く評価した作品です。

経済産業
大臣賞



(学生の部)

「あのひと手帖」

静岡文化芸術大学

高橋美羽 (静岡県)

名前

年齢 / 性別 出身

自分との関係

仕事 / 所属

いつ どこで

★ この人の とくべつ

好きなこと

話したこと / したこと

【 自分と比べて 】

体格

身長

工夫点

「あのひと手帖」は、出会った人を覚えるのが苦手な人にも楽しんで使ってもらえることを目指した、新しい感覚のツールです。

- 用紙には質問と大まかな枠組みがあるだけで、シンプルなデザインとし、誰もが簡単に記録できるようにした。
- 記憶のしやすさを重要視し、「とくべつ」

なエピソードを記録できるようにした。

- 人のイメージのパターンを色とグラフィックの組み合わせで6パターン作り、用紙の角に貼れるようデザインし、シートを見てその人を想起しやすいようにした。
- 色弱の方にもわかりやすいカラーリングとグラフィックを考えた。

名前

年齢 / 性別 出身

自分との関係

仕事 / 所属

いつ どこで

★ この人の とくべつ

好きなこと

話したこと / したこと

【 自分と比べて 】

体格

身長

講 評

「自分で描くことで記憶が残る」「色を機能として使う以外に、形状にも工夫されておりモノクロコピーをとってもわかりやすい」「全部を描くのではなく、その人ごとに記憶に残る部分（印象）を描くことで記憶が残りやすい」「人のシルエットがあることで、絵心がない人でも描きやすい」「出会いの時に、描くことでコミュ

ニケーションの始まりを感じる」など、審査委員から多くの感想が出されました。非対面でのコミュニケーションで熱を感じられない状態の中で、コミュニケーションツールとしての新しい価値を感じる点を高く評価した作品です。



優秀賞

（一般の部）

まちなか防災アクション

株式会社武揚堂

宇佐美萌々香、内村祐哉（東京都）



工夫点

都市部は人が密集するにもかかわらず、大雨による浸水や直下型地震などの危険にさらされています。一方で、自治体が発行するハザードマップは平面的に情報が記載されていますが、高層ビル・地下街といった「タテ構造」への対応には限りがあります。こうしたなかで、タテ構造は支援を必要とする方にとっては避難するにも難しさがあります。そこで、都市部の災害時にとるべき初動対応を、仮想の街をモデルに

縦に開く折り加工で視覚的に表現しました。全体的に左側を「大雨」、右側を「地震」とし、折りを開くごとに「水害、地震のリスク」、「水害発生前、地震発生時の様子」、「発生後の対応」と順に理解できるよう工夫しました。イラストをメインに据えて、やさしい言葉で説明を載せました。発災前後でイラストも変化し、どういったところにリスクが隠れているかわかるようにしました。

講評

4つの現象を地下と地上、大雨・浸水、大地震に分けて位置関係を使って表現している点がわかりやすいです。細かく情報が記載されてい

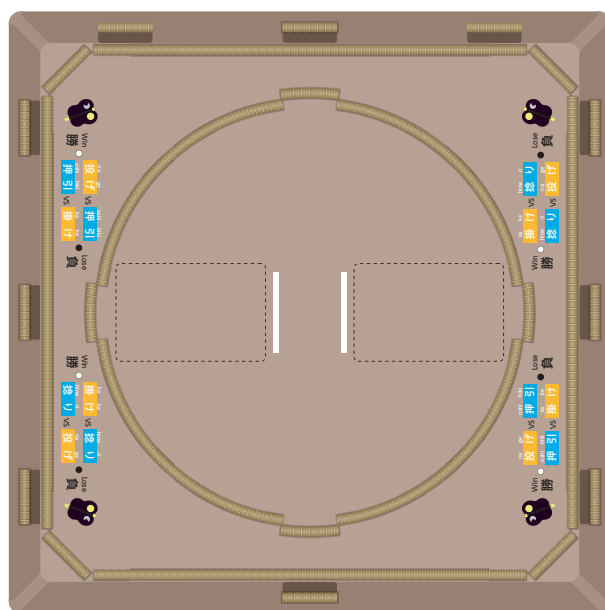
ますが、色も2色でシンプルに表現され、関係性がわかりやすく理解しやすい工夫がされている点を高く評価しました。



大相撲トランプ

株式会社新聞印刷

眞榮田拓也、土屋武義、石井貴司、水野祥徳、
草川祐二、池田実佳（大阪府）



工夫点

日本の国技・相撲が、子どもをはじめとしたもっと多くの方に詳しく知る機会になればと考え、通常のトランプ機能に「大相撲ゲーム」の

機能も付けました。また、ローマ字の読みやルール説明の英訳も付けて、外国人旅行者の日本のお土産にもなるようにしています。

講評

相撲を題材にして、今回のようなゲームにまとめた発想が斬新であり、カードに曲面をつけて取りやすくなっている点や、使う人に優しい配慮

もあり、実際にやってみたいと思わせる点を高く評価しました。ただし、文字の読みやすさについては、ルビの部分などの改善を期待します。



優秀賞

（一般の部）

ぼくはひだりきき

松本印刷株式会社

橋本良太、関田奈保子（静岡県）



工夫点

左利きに限らず、すべての人にとって過ごしやすい環境づくりとは何なのか…。あえて答えは書かず、読んだ後話し合っていたいただく教材に

なってもらえたらと思い考案しました。

書体はUDフォントを使用しています。

講評

色やかたち、文字が読みやすいなど、デザイン的にもまとまっている点や、子供から大人まで読みやすい分量など、色だけでなくバリアをなくしている点を評価しました。一方で、「ぼく」だけでない視点も今後検討してほしいという意

見もありました。

今後、シリーズ化できそうな可能性が感じられ、この本を使って他の人との違いを発見するワークショップを行うなど、展開を期待できる作品です。



UNO WHITE

専門学校浜松デザインカレッジ
岩崎宥真 (静岡県)



工夫点

世界中で多くの人に遊ばれているUNO。ルールはとてもシンプルで誰でもすぐに遊べるカードゲームである。しかし、それは本当に「誰でも」遊べるのか。目が不自由な人、見える色づいた世界が少し違う人、世界にはたくさんの人がある。そんな人たちでも遊べるようなUNOを新たに考えた。

元のルールは大きく変わらないまま、「指先の感覚」だけで遊べるようなデザインをした。

カードには指が傷つかないように、角は丸く削る加工をした。

常に触り続けるため普通のカードより少し厚めに制作し、強度も増した。

講評

目が見えない人でもUNOができる可能性を感じられ、色を白だけに特化したことで余分な部分を削ぎ落とし、レーザーカッターを使用してモノとしての完成度を上げて、角に丸みを付けて仕上げたことなど、使う人への配慮が素晴

らしいものになっています。「触覚」を意識してゲームを進めるなど、ルールにも工夫がされており、制作へのこだわりを含めて高く評価された作品です。



野菜の鮮度が一目でわかる マグネット

専門学校浜松デザインカレッジ
山下理恵（静岡県）



工夫点

工夫した点は3つあります。

1つ目は、冷蔵庫を何度も開けなくてもわかるように、どんな野菜かはっきりわかるイラストにし、購入日の記入欄を設けることで、いつまでに食べなければならないのかわかりやすくしています。2つ目は、マグネットは大きいも

のではないので、小さな文字でも読みやすいように行間やフォントにも工夫をしました。3つ目は、めくるときや子どもが触ったときなどに怪我をしないように、マグネットの形を円形にしました。

評講

シンプルな発想ですが、アイコンのデザインが野菜の特徴をつかんでおり、冷蔵庫に貼ってキレイに感じる完成度です。日付を見て、裏の情報を見て、学んでいく利用シーンが想像でき

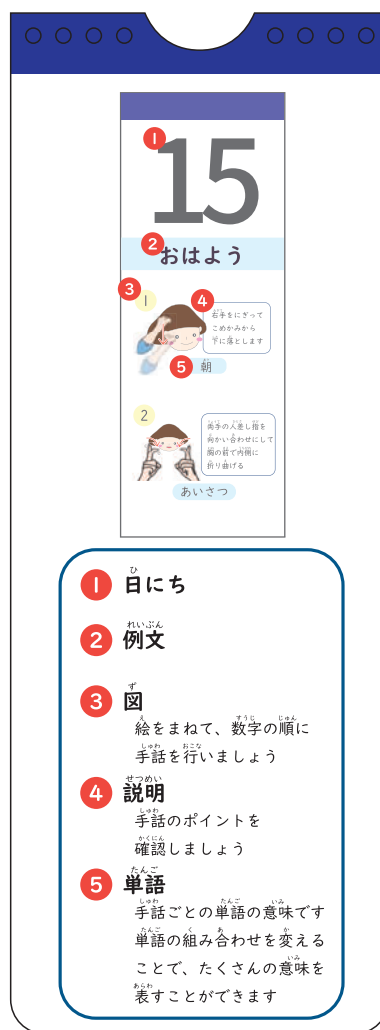
る作品です。台所のMUDという視点が感じられ、これによって無駄がなくなるSDGs的な可能性を感じられる点を高く評価しました。



一日一手話 日めくりカレンダー

京都女子大学

石田妃奈子 (京都府)



工夫点

(記載なし)

講評

毎日見ることで、手話への興味を感じられる作品です。1人だけでなく、家族で見ることで会話ができることで、手話について話す機会が増えそうです。毎日見るので、数字と曜日の関

係性が気になるという意見もありました。数字が大きいのが、わかりやすく手話を知る可能性を感じられる点を評価しました。



佳作
(一般の部)

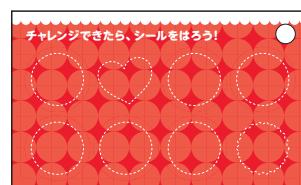
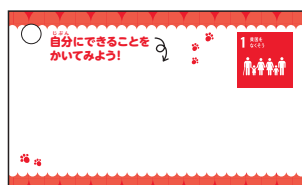
「みんなで学ぶ！SDGs ツール」

株式会社スタジオオーネ 63

檜垣美乃里、大場千種、小野奏江、藤原美紀（東京都）

講 評

SDGs を楽しく調べるきっかけになる、時代的にタイムリーな話題であり、大人から子供まで楽しめそうという意見を多く集めました。デザインだけでなくレイアウト、色なども工夫されており、シールを貼ったり、自分にできることを書くなど、自主的に参加させる工夫を評価した作品です。



「あつめて つなげて 手話ゲーム」

大阪シーリング印刷株式会社

増山由佳、柴田みお、米田友規子、

池田恒、乗松めぐみ、中原聡美、

岡田智子、勝山優行、宮崎真奈（大阪府）

講 評

手話について覚えるきっかけになる、コンパクトにまとめている、手話をカードで覚えるという視点が新しい、普及させるきっかけになるなどの可能性を含めて評価しました。あつめる、つなげる、手話をするというゲームの流れがわかりやすく、制作にあたり聴覚障がい者の方々に協力いただき検証している取り組みを評価した作品です。





「備えを知らせる BI-CHIKU」

大阪シーリング印刷株式会社

田川晶子、大町瑞穂、片山博美、
河澄香菜子、久保祐大、住吉恵利花、
富田美奈子、満洋、村中成仁（大阪府）

講評

現状のメーカーが取り入れられそう、アプリとの連動が新鮮、色数を絞り込んでいる点などが共感された作品です。必要だと思いつつながら管理できていない人が、備蓄を始めるきっかけになる可能性を感じました。実現にむけ SNS、web への展開など時代性を考慮しているメディア展開を評価しました。



表面

裏面

表面

裏面

印字イメージ

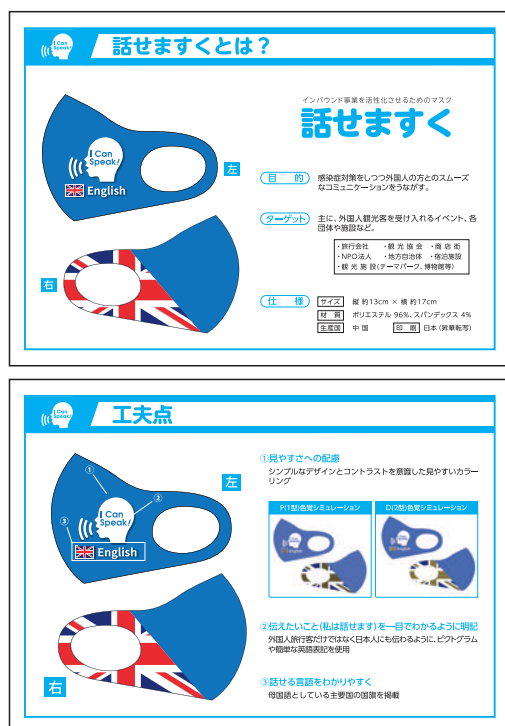
「話せますく」

株式会社明新社

松本公一、夜久敬広、中川由美、
湊悠介、山本直人（奈良県）

講評

顔に付けるマスクと言語を組み合わせた視点が新しい、通訳だけでなくイベントでの展開の可能性を感じる、新しいメディアネーミング、アイコンがわかりやすいなど共感が多くあった作品です。国旗と COLOR の組み合わせに新鮮味は感じないが、マスク着用が普通になっていくと、顔がコミュニケーションの一つとしてグローバル化へ向けて表現に使える可能性を感じた作品です。



左

右

左

右



「Translation C F (翻訳クリアファイル)」

富士印刷株式会社

石田恵実、古川大伸、望月佳奈美（三重県）

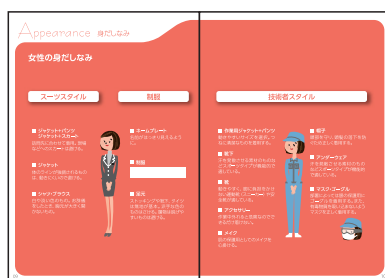
講 評

病院などで外国人には便利、問診以外に使えるパターンがありそうなど、医療現場での問題点に視点を当てた点を評価しました。日本語の問診をこのファイルに入れるだけでそのまま利用でき、外国人だけでなく、他言語でわからない単語も理解できる点などちょっとした工夫が素晴らしいと思います。問診票だけでなく、医療現場で他の展開も期待したい作品です。

「ユニバーサルマナーブック」

株式会社一心社

制作部（大阪府）



講 評

新規性という点はあまりないが、大人にも知って欲しいマナーが入っており、マナーについて改めて考えるきっかけになったなど、大人の審査委員からの評価を受けました。全体的なカラーリングの検討とデザイン的には、大項目、中項目、小項目などの編集方法やレイアウトを工夫して欲しいとの意見がありました。このブックを使用する場面を想定してサイズ、素材などを更に検討して実際に展開して欲しい作品です。



佳作
(学生の部)

「安全な日本暮らし あしたのわたしに。いつかのなにか。」

専門学校浜松デザインカレッジ
デロスサントス・アガ（静岡県）

講評

留学生が自分の経験をもとに制作されており、外国人がわかりやすいのは、片言の英語などではなく、優しい日本語がわかりやすいという事実の説得力がありました。バケツに入れることで、使用できる可能性がより感じられる作品です。



「ぼくはへんな子？」

専門学校浜松デザインカレッジ
梅葉陽（静岡県）

講評

作者自身が色々リサーチを行い、自身が感じたことを踏まえて制作しており、オリジナリティが感じられます。予定調和的なストーリーではなく、最後に先生がカミングアウトすることで、そんな先生がいて欲しいという学生の気持ちを想像したり、LGBTQのことを考えるきっかけになる作品です。デザインとしては文字の行間を広げるなど、細かいレイアウトへの工夫を期待します。





「文とり鳥」

専門学校浜松デザインカレッジ

吉永光希（静岡県）

講 評

これまで、栞などの提案がありましたが、この提案は複数使えること、マーカーを使わないで記録できるなどアイデアについて評価された作品です。文を一行だけ挟む、文を一行取る、文をとる＝「文鳥」とかけて「文とり鳥」というネーミングを見つけ、鳥をキャラクターしたところに共感を得ました。今後は鳥のキャラクターの種類を増やすなどの展開が期待できます。

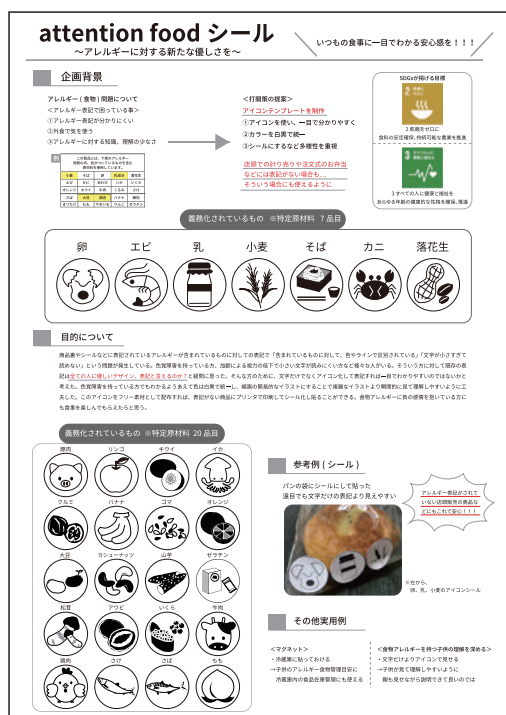
「Allergie food シール」

専門学校浜松デザインカレッジ

東畑遥香（静岡県）

講 評

世の中でアレルギーを抱える人が増えており、加工食品には、アレルギーの記載はあるが、レストランメニューなどではまだ記載が少ないなどの時代性を背景に、記載がない商品にシール印刷し貼り付けることで問題を解決する視点を評価しました。今後の展開としては外国人には、現状の蕎麦を表記したピクトグラムでは理解されないことなど、ピクトグラムのデザインをもう一工夫して欲しいという意見がありました。





「このマークってなんだろう？」

専門学校浜松デザインカレッジ

深田理子（静岡県）

講 評



健常者も障害者も、これらのマークがあることで社会生活が成立しています。公共を維持するためには、お互いにマークを意識する必要があります。カレンダーで使う際に色が必要なのか？マークを際立たせながら、デザインをしていく情報の整理などを検討して欲しいとの意見がありました。

「家族みんなで防災すごろく」

京都女子大学

山本奈々（京都府）

講 評

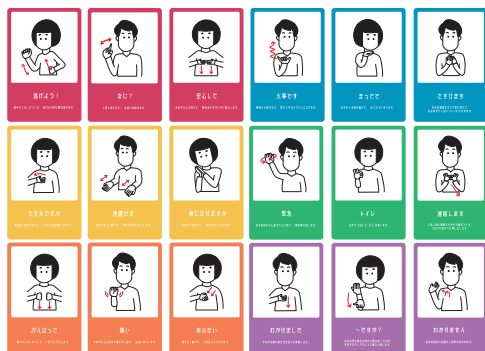
スタートとゴールがぱっとわかりやすい、色使いがシンプルでわかりやすい、すごろくでありながら、クイズになっている視点、情報が多くても読みやすい等の好意的な意見が多くありましたが、色弱者の人には、青と黄色にすればいいというものどうか？黄色の中の白抜き文字が見えにくい、もう少し創意工夫が欲しいとの意見もありました。



「あそんでまなぼう！ もしもの手話ゲーム」

京都女子大学 宮部あかり（京都府）

講 評



手話という、文字では伝えられないものを題材にした点、ゲーム感覚で手話について考えたり、覚えてみようとする可能性に審査委員から共感を得ました。シンプルなイラストで表現されていますが、文字の大きさなど第三者に使ってもらうなど検証を重ね、そこから得られたことを活かしているのか？など今後の改善についての意見が寄せられました。



<http://www.aj-pia.or.jp/>

※本書によって発生した問題・トラブルに対しては、いかなる場合においても一切の責任を負いかねます。



MUD
P10435



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



P-00096

この印刷物は、CSR
に取り組む印刷会社が
製作した印刷物です。